

絵本塾 2017年 3月

おはなしのへやだより



神さま、まもってください
あさ、そーっとおきて
空を見ると
お日さまが上ってきて
明るくなります。
きょうの一日が
わたしのまえにキラキラ光っています。
神さま、きょうもおたすください。

神さま、おともだちみんなが
なかよくするおてつだいができますように。
「きれい!」ではなく、
「大好き!」と言えますように。バラバラになるのではなく
一つになれますように。

(小さな おいのりのたび いのちのことば社)

夜明けが少しずつ早くなり、夕暮れが少しずつおそくなっています。待ちに待った水ぬるむ季節の到来です。昨年秋に植え付けた球根たちは芽を出して、一雨来るとにつぼみをふくらませ、自分色をだしています。

春! 幼子たちも暖かくなるにつれて動きが活発になってくることでしょう。子どもたちはどんな自分色を出すでしょうか。そして、お母さんはどんな自分色を出しますか。らくちんではない子育ての日々を、上手に息抜きの工夫が見つけられるといいですね。一休みしに「絵本塾:おはなしのへや」にいらしてください。お待ちしております。

2017年 4月のご案内

日時 3月10日(金) 午前10:30~12:00 昼食
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ:望月鈴子へ)
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎:053・453・1694
会費 500円(一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り
<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える
手遊び、リズム遊び、絵本:ふうたみちくさ
絵本 作 村上康成
パネル・シアター 復刊ドットコム
他 テーマ:「みちくさ」を楽しむ



心に語りかける絵本

~言葉への感性を育てる~

人は、あらゆる生物の中で、唯一、言語を持つ生き物です。ことばを話し、ことばを聞き、ことばを用いて感情を表現し、思考を練り、より人間らしく成長していくのです。ところが現代は、このことばが病み衰えている時代ではないでしょうか。

テレビを通して流れてくるコマーシャルの過激な音や言葉、バラエティー番組などで流されるタレントや進行役、キャスターの早口のおしゃべり、短い擬音、擬声語……。また、情報産業の発展・進化により、またたく間に情報は拡散していきます。真実ではない間違った情報で人々は右往左往する、傷つくという状況があちこちで引き起こされてしまいます。無責任にことばが垂れ流され、ことばが粗末にされているのが今の時代状況なのではないかと感じています。私たちは、急速に変化していく情報化社会で、ゆっくり・じっくり語りかける、語りかけられる。そして、語りかけられた言葉に耳を傾け、聞くという事が苦手になってきている。このことは、当然たくさんのことばを身につける、美しい言葉に出会い、ことばへの感性を育てる機会を失っていると言えるのではないのでしょうか。

あらゆるメディアが視覚・映像・さまざまな情報をふんだんに、過激に提供してくれる環境の中で、ことばをことばとしてじっくり聞く機会が失われています。人はじっくりとことばを聞き、ことばを身につけ心の中に蓄え、そのことばに思いを巡らせていくうちに自分の考えが生まれ、語る相手の気持ちにまで心が向けられるようになる。ことばへの感性が磨かれていくのです。

アメリカのジム・トレリスと言う人の調査によると、子どもは2歳までに少なくとも300の言葉を身につけ、1年後にはその3倍になるとのこと。さらに3~5歳の間に1カ月におよそ50ずつ言葉を憶えていくということです。ここまで順調にいけば2200語! 大人が毎日の暮らしの中で使う言葉はおよそ1800語だそうですから、これまでの時期でその必要をほとんど満たしているというわけです。逆に言えば、将来人と良いコミュニケーションが出来る基礎、言葉への感性が磨かれる基礎は幼児期に決まる、ということかもしれません。

加速度的に進化していく時代ですが、だからこそゆっくり、じっくり「読み聞かせ」を大切にし、たくさんのことばを紡いでいく必要があるのだと思います。お昼寝の前に、あるいは夜眠る前のひと時、同じ布団で体を寄せ合ってお母さんの肉声で語られる「読み聞かせ」ほど、子どもにとって魅力的なものはないのではないのでしょうか。お母さんと子ども、一緒にことばを身につけ、ことばへの感性を育て合いましょ。

